

1 児童・生徒の学びをサポートするICT活用

(1) 主体的な学び

こんな実践

絵画の構図を決め出す場面で、タブレット端末で撮影した写真を活用し、自分のねらっている構図を選択・決定する生徒の活動を支援する実践です。

実践学校 H中学校

実践学年 1学年, 2学年

実践時期 1, 2学期

題材名 : 1学年「見慣れている場所が語りかけるもの」 2学年「旅する靴」

学習指導要領との関連 : A表現 (1) ア(ア), イ(ア)

○ 2学年 題材名「旅する靴」において

構図を決め出す場面で、自分のイメージした構図をタブレット端末で何枚か撮影し、その中から自分のねらいに合ったものを決定していきます。三次元を二次元で表現することが困難な生徒に対して、奥行や立体感を感じさせる構図づくり、スケッチに有効です。

自分のとらえたい構図に臨場感をもって再現することができます。



<タブレットで撮影した画像>



<描いた絵>



ここがポイント!

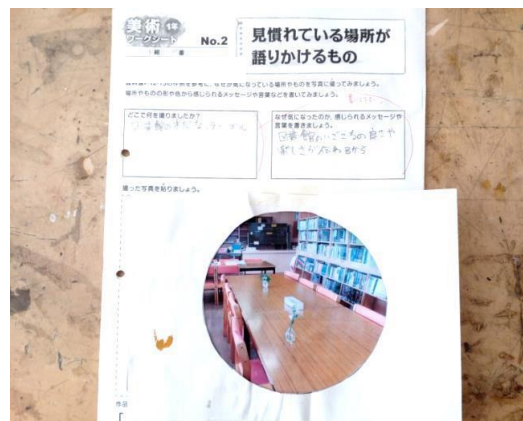
- ・生徒は、タブレット端末で撮影した数枚の写真と比較しながら、自分のねらいにあった構図を選択し、決定していくことができます。
- ・決定した写真を見ながらスケッチや色付けを行うことで、臨場感を再現することができます。

○ 1学年 題材名「見慣れている場所が語りかけるもの」において

見慣れている場所を決定して、写真を学習プリントに添付します。円形のフレームの絵画を描くために、円形に切り抜いた台紙を写真に当て、中心をどこにするか動かしながらもっとも良いところで構図を決定することで、自分のねらった円形の構図をとらえることができます。



<決定した場所の写真>



<写真を添付し円形の台紙で構図を決定>



ここがポイント!

- ・生徒は、タブレット端末で写真を撮影する際、画面越しに円形の構図を考えています。そして、プリントアウトすることで、生徒は自分のねらった円形の構図をとらえることができます。



<描いた作品>

まとめ

- ・構図を決め出す際に、自分が撮影したいいくつかの写真を比較して決定することができ、自分が表現したい構図を選択するとともに、時間の短縮にもつながりました。
- ・タブレット端末で撮影した写真を活用することは、立体的な表現が苦手な生徒に対しての支援方法として有効です。